

第4回 第3次丹波市総合計画審議会 会議録

日時：2023年7月10日（月）

14:30～16:30

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

【出席者委員】（敬称略）

上羽 裕樹、岸本 好量、竹内 真子、森島 斉、細見 博美、植木 光敏、大野 亮祐、
足立 はるみ、金川 方子、柳瀬 長明、杉岡 秀紀、山口 洋子、池畑 美帆（13名）

【欠席者委員】（敬称略）

坂本 康子、寺内 清、實吉 直

【事務局】

副市長、清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、多田政策係長、足立沙織主事、前川主査、
足立大樹主査

配布資料：【資料1】第3回審議会（6/14）のワークショップまとめ

【資料2】各市町の総合計画・将来像について（参考資料）※再配布

【資料3】審議会委員名簿

1. 委嘱書の交付

新たに委員となった金川氏へ副市長から委嘱書の交付

金川委員自己紹介

2. 開 会

3. あいさつ

【副市長】 前回の審議会ではワークショップ形式で将来像のキーワードを提案していただいた。「人を育てる」、「人が育つ」、「つながり」、「若い人が参画しやすい」などのフレーズが出てきていた。そのことから、次世代の子どもたちや若い人たち、地域の担い手に対する皆さんの想いが伺えた。丹波市の将来像は「オリジナリティがあり、子どもからお年寄りまで、誰もが自然と口に出てくるキャッチフレーズで、行政・市民を含め、みんなのものでなければならない。」と副会長がおっしゃられたと報告を受け、非常に素晴らしいご提案をいただいたと感じている。本日は引き続き、将来像についてご議論をお願いしたい。

【会 長】 今回は一点に絞って将来像のご検討をいただく。まちの10年間を決定していく大事なものなので、職員や市民ワークショップだけでなく、それらを踏まえて、本審議会でも議論いただきたい。資料2に丹波市の第1次および第2次総合計画に示す将来像が示されているが、「人」「自然」「交流都市」「丹（まごころ）」のフレーズが共通しており、これらを引き継いでいくのかなど、今回は前回検討したキーワードなどを、具体的な将来像として形にしていきたい。
前回検討していただいたキーワードを土台にしていきながら、第1次・第2次の総合計画に示す将来像の文字数とか、体言止めで終わるかどうか、この言葉を残そうかなども重要な論点となる。また、他のまちには他のまちの歴史があるので、単純なものまねはNGである。他の市町の事例も資料に出ているので、確認いただきながら、副市長の挨拶にもあったとおり、オリジナリティの部

分を意識してもらいたい。

また、子どもからお年寄りまでがすらすらと読めるように、長すぎず、あるいは難しい漢字を使わないとか、解釈が割れないようにするなど、分かりやすい将来像を考えていただきたいと思う。

さらに、未来の視点を意識して欲しい。10年後の未来は誰にも予測できない。ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルス感染症の流行を誰も予測できなかったように、向こう3～4年間のことでも私たちは予測することは難しい。そのなかで10年先に当てはまるような将来像を考えていくのは非常に難しいことではあるが、未来視点で「こんなまちであれば良い」という理想を描いてもらうことは非常に大切なことである。理想のなかから出てくるキーワードもあるので、議論をお願いしたい。

資料1では、事務局に前回審議会で出た意見をまとめてもらっており、フレーズやキーワードが記載されている。最終的には成文が必要であるが、ここで出てくる単語などは非常に重要なもので、この次の作業として、総合計画の柱を考えていくこととなる。例えば福祉のことや安全・安心のこと、子育て、教育のことを考えるときに、施策を表す順番などを決めるときにも、沢山出していただいたキーワード・意見などが参考になっていくイメージである。そのあたりも踏まえて意見を出しあってほしい。

4. 協議事項

将来像案の検討について（ワークショップ形式）【資料1～2】

・・・2グループに分かれて将来像について協議をした。

【Aグループ】 前回の会議の内容と新しい意見を踏まえながら、「まなび人を育む 丹(まごころ)の里～市民主体の未来へ～」という将来像を検討した。

学びの人を漢字で書くと、学びの範囲が狭くなるのではないかという理由で、子どもの学校教育から歳を重ねてからの生涯学習の学びを含める意味であえて、「まなび」とひらがなで表現した。まごころは優しさ、ほどよくて良いとの意味を込めた。サブタイトルは、新しい時代に向けて、未来をめざすという視点を表現している。まだ、行政主体の感覚を持っている方がいたりするので、そうではなく、市民一人ひとりが一緒になってまちづくりを進めるという想いを込めて、「市民」という言葉も使用した。

また、人が育っていく土壌はもう丹波市にはあり、人がどう育っていくかにスポット当てて、その人を育てる部分、子どもであれば学校教育、幼児教育・保育で、歳をとっても一生学び、勉強という生涯学習の視点もあり、学校教育から生涯学習まで「まなび」を大切にしていこうという想いが含まれている。地域を支える人づくりの点で、人が学んで人をつくっていく、それがまちづくりにつながるということや、行政ではなく市民が主体となって動けるように、人を育てるところが必要になると思う。

市長が使われているフレーズである「帰ってこいよ」については、市民一人ひとりが学びたいと思えば、魅力的なまちになると思う。様々な理由で出ていかれた方が、丹波市の魅力を知ってもらって、また戻ってきてもらえるようにという想いもある。これまでは男性や、50代、60代の方が主体になってきたが、これからは若い世代、女性の参画によって、新しい世代の流入によるまちをつくっていくという想いも込めている。

将来像を達成するための取組としては、学校教育や生涯教育の充実、社会教育施設の充実や拡充が必要だと思う。一番は、子育て支援であり、新しい世代が育っていくこ

とによってまちがつくられていくことから、子育て世代への支援や市外にいる大学生などに丹波の企業を知ってもらうことなどで、丹波市に魅力があると認識してもらえるのではないかと考えた。

【Bグループ】 Bグループでは、「わくわくが止まらない、あなたが輝く丹波市～未来に+1しよう～」という将来像を検討した。

誰もが理解しやすい表現、子どもにも分かりやすい表現でということで、「わくわく」というフレーズを使った。「わくわくが止まらない」というフレーズでは、丹波市に住んでいる人の生活の充実感であったり、市外に住んでおられる丹波市出身の方が帰りたいたいと思える、また、まったくの市外出身の方であれば、外から見て住んでみたい、丹波市にはこんな魅力があるのかと興味が引かれるようなまちとしたい想いを表現している。

「あなたが」というフレーズでは、市民 1 人ひとりが自分ごととして捉えられるフレーズとして入れており、自分自身が輝く丹波市が、まち自体の輝きになるといった視点で、具体的に表現した。

自分がわくわくして、自分自身が輝く丹波こそ、めざしていききたい将来像であるということ、「わくわくが止まらないあなたが輝く丹波市」と表現している。

サブタイトルの「未来に+1しよう」は、どんな施策（子育て、産業振興等）でも、何においても、1つ上をめざしていく、前進していくという姿勢を見せていこう、そのような丹波市であろうという想いを込めている。また、未来に常に+1（プラスワン）していくことで、私たち自身が輝いていきたいという想いを込めている。

将来像を達成するための取組までは検討できなかったが、協議のなかで、人との交流の部分、つながりの部分を大切にしていきたいという意見があった。都市的な移動の面でも、人がまちを動き回っていて、また、市外の人観光に訪れて地域にお金を落としていってもらったり、人が丹波市の中で循環して、いろんなものが丹波市に入って混ざりあっていくことで、新しい将来像が実現されていけば良いと話した。まち自体の都市の発展であったり、人・地域（自治会など）のつながりの強化であったり、そういったところを取り組んでいけば良いという意見が出ていた。

【会 長】 両グループともに個性のある将来像を議論いただいた。

Aグループは「まなび」が前面にでている。社会教育や生涯教育をもって、学びが育まれるような丹（まごころ）の里となるということや、市民主体の言葉から、これまでの行政主体ではない、自分たちがやっていくという意味合いが込められていてとても良いと思う。加東市でも「みんなが主役」という言葉が出てきているが、本当に大事な視点だと思う。主人公とか主役という言葉はとてもいい言葉だと思う。ただ、子どもたちの視点でいえば「まなび」の言葉に対して、学校教育のイメージしかなかったりするので、そこを広げていくことが必要になる。「まなび」の意味の拡大解釈というか、そのあたりの理解を総合計画で示し、意味を広げていくことが重要ではないかと思う。

Bグループは「わくわく」という表現がオリジナリティ溢れる個性的な良い将来像であった。「あなたが輝く」も呼びかけるようなイメージで良いと思う。それから「未来に+1しよう」というフレーズも個性的。カタカナを使う場合のメリット、デメリットもあるが、+1（プラスワン）はほとんどの方に意味を理解していただけないかと思うので、1つのオリジナ

リティになるのではないか。「未来」というキーワードも入れてもらっている。

強引に2グループの案を組み合わせると、『「まなび」と「わくわく」育む丹（まごころ）の里 ～未来に+1しよう 市民（あなた）主体の新時代～』という案になる。これが良いかは別として、こうしてみると「わくわく」は「育む」ものではなく「感じる」ものかなといった視点が出てくる。「まなび人」という言葉も議論はあると思うが、この案も一旦仮置きさせてもらえたらと思う。

大事なことは、将来像という大きな方向性のなかに魂が入ってくるので、「まなび」が入るのであれば、総合計画の柱として「学校教育」とか「社会教育」「子育て」を前に押し出したようなものになるということである。

また、「わくわく」というキーワードが入るのであれば、楽しそうなイメージが伝わる工夫をしたり、「+1しよう」というフレーズも採用されるのであれば、総合計画のなかにプラスワンの部分を自分で書けるような欄をつくるといった市民が参画できる仕掛けがあると良いかもしれない。

ただし、「わくわく」という表現は、近隣市で使われているところもあるので、すこし調整が必要（Bグループ：「わくわく」から「ときめき」のフレーズに変更の意見有）。

Bグループに「わくわく」を「ときめき」と変える合意をいただいたので、『「まなび」と「ときめき」がとまらない丹（まごころ）の里～未来に+1しよう 市民（あなた）主体の新時代』という案に修正したい。学びがとまらないは、生涯学び続けるという意味となり、ライフロンディングの意味になり、一生涯まわり続けるという解釈ができる。ともあれ、本日の将来像の議論は一旦これで仮置きとさせていただきます。

5. その他

第5回丹波市総合計画審議会の開催

日時：令和5年8月23（水） 午後1時30分から

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

6. 閉会

【副会長】今日は2時間の協議のなかで、良い協議の時間になったと思う。色々な意見も淘汰されて、良い形となった。最後は杉岡会長にご提案いただき、今後は市の事務局の方でも練ってもらい、決定していくプランになっている。ここには色々な役職の方がいて、意見を出しあい、ここまでこれたのは本当に良かったと思う。次回でゴールにたどり着く予定となっているので、よろしく願いたい。

以上